

■はじめに…

日本の農業は岐路に立っています。温暖化、農薬の多用、自給率、TPP、FTA、諸外国との競争、生産性・生産力、規模拡大の構造的・物理的問題、労働力・後継者問題、等々…数えきれません。海外輸入品や大手事業者に対抗できうる農事経営・システムを考えなければなりません。限られた物理的環境の下、農事ビジネスを開拓するには画期的・先駆的技術を採用した農業 6 次化を**基本**とした構想～栽培・加工・最終製品化力と流通力（マーケティング）が必要です。

農業事業は単なる生産を主体とする形態から自らの生産物を商材化・流通化する総合的マネジメントを志向すべきと考えます。

■コンセプト

今回、画期的・先駆的技術を採用することにより実際的・具体的に実現性の高い事業を計画します。特に零細・小規模農業事業者が経済的に存続できうる形態を提案します。

あり方として、グローバル化や少子高齢化にともない進行する地方・山間地の過疎化や荒廃・疲弊していく里山をステージとして、その自然環境の保全（治山治水に繋がる）、及び有機的な経済活動の方向を提示し、域内経済の自立（生産力、財務力、雇用、社会性）を担保できる事業体を創造することが肝要です。同時に生産を支える有機的なネットワーク作りを多面的にアプローチできるシステムを構築します。

■企画概要

栽培、加工、製品・商材化に独自に技術を開発導入し、経済的・合理的な運用を実践する。

① 限られた物理的空间で生産増大化 ② 温暖化や気候に左右されない生産システム、

② 多角的な里山経済資源の活用 ④ 画期的な加工・商材化システムの導入

以上を組み合わせた総合的な農業の 6 次化を標榜し実現させる。以下に対応する最適案件を設定。

1. キノコハウス栽培計画 ~限られた物理的空间で生産を増大化できる

低コスト、高付加価値種生産

(1) 原木栽培 (2) 菌床栽培 (3) 堆肥栽培

(1),(2),(3)に付帯する事業… 加工・商材化～流通

2. 野菜ハウス栽培計画 ~温暖化や気候に左右されない安定生産システム

物質循環型農法による栽培、腐植・堆肥生産～独自促成栽培法

低コスト、有機無農薬、高品質、多収穫、年間収穫回数増を目指す生産

(1) 果菜類栽培 (3) 葉茎菜類栽培 (3) 果実的野菜栽培 (4) 水耕栽培 (5) 花卉栽培

(1),(2),(3),(4),(5)に付帯する事業… 加工・商材化～流通

**3. 野菜露地栽培、加工・流通、農事研究所
及び観光農園、レンタルファーム運営計画** ~多角的な里山経済資源の活用
加工・商材化・最終製品化

物質循環型農法による栽培、腐植・堆肥生産～独自促成栽培法

有機、多収穫、年間収穫回数増を目指す生産

(1) 果菜類栽培 (2) 葉茎菜類栽培 (3) 果実的野菜栽培 (4) 根菜類栽培

(5) 花卉栽培 (6) 果樹栽培 (7) 薬草栽培

(1),(2),(3),(4),(5),(6),(7)に付帯する事業… 加工・商材化～流通システム、サービスの開発

**独自
技術
開発**

開発装置 ①温・冷空調装置 ②温水・冷水供給装置 ③高温度過熱水蒸気発生装置
④発酵・蒸炎処理装置 ⑤乾燥装置 ⑥還元水製造装置 ⑦成分抽出装置

処理内容 最適温栽培環境、最適農産物管理、合理的な食品加工処理、乾燥処理、粉体・固形化…